

第 1 号様式

(第 1 面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒108-8532
住 所 東京都港区芝浦2丁目5番1号
氏 名 あすか製薬株式会社
代表取締役社長 山口 隆 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第 9 条第 1 項（同条第 4 項において読み替えて準用する場合を含む。）の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	あすか製薬株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	神奈川県川崎市高津区下作延 5 丁目 3 6 番 1 号		
該当する事業者 の要件	☒ 規則第 4 条第 1 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 2 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 3 号該当事業者		
	☐ 規則第 4 条第 4 号該当事業者		
	☐ 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	医薬品製造業		
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		1, 662 k l
	☐ 自動車の台数		台
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	総務部広報グループ
		所在地	東京都港区芝浦2丁目5番1号
	電話番号		03-5484-8366
	F A X 番号		03-5484-8351
	メールアドレス		webmaster@aska-pharma. co. jp
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成25年度 ～ 平成27年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 http://www.aska-pharma.co.jp/company/environment.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

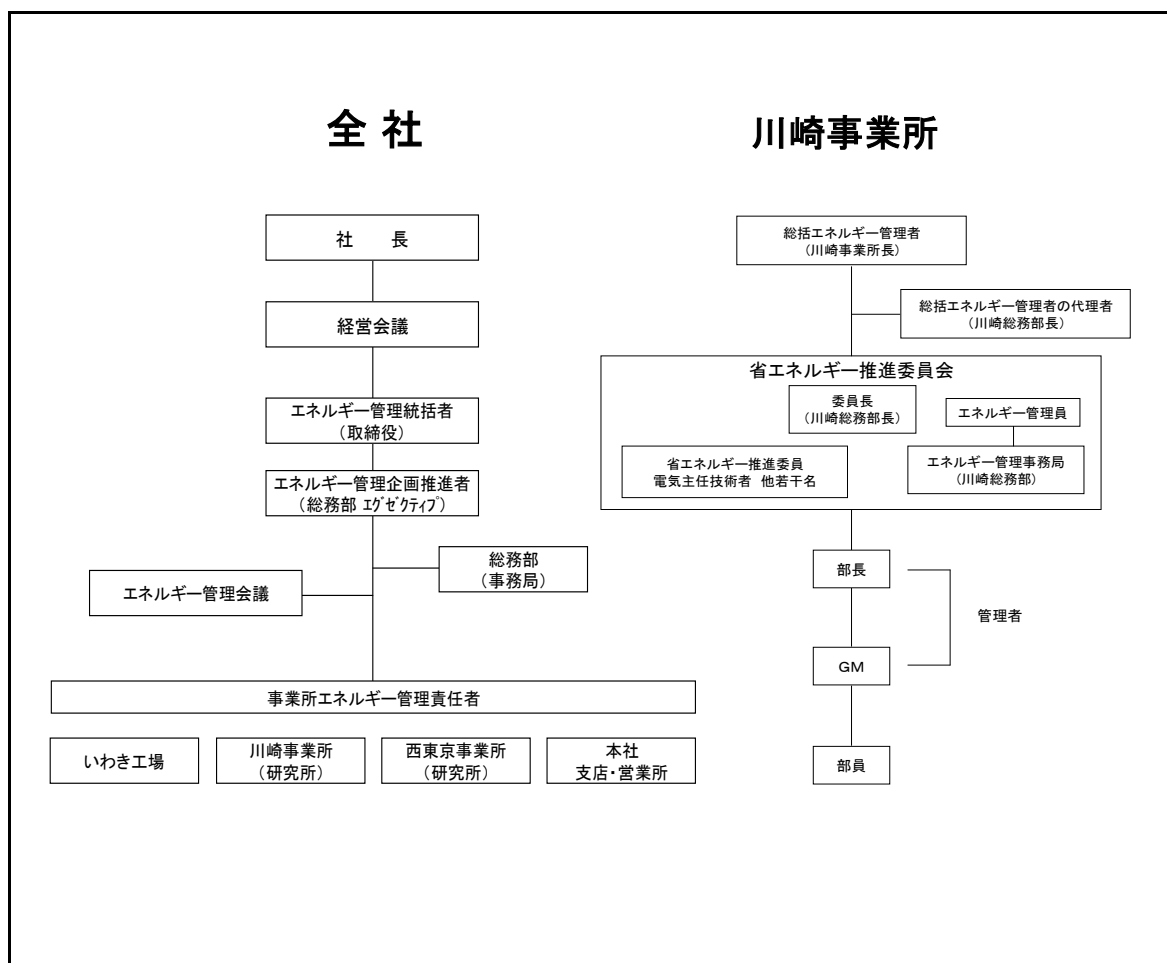
1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

あすか製薬は「先端の創薬を通じて人々の健康と明白の医療に貢献する」との経営理念のもと、社会に貢献し信頼される会社として、環境問題への取り組みを当然の使命と受け止め、すべての事業活動を対象に環境の保護と環境への負荷低減に継続的に取り組みます。さらに、当社は、環境配慮の考え方を示す環境基本理念を制定し、具体的な取り組みの指針として環境基本方針を定めております。

1. 環境マネジメント体制を確立する。
2. 環境法規制および当社が同意したその他要求事項を遵守する。
3. 研究・開発、生産、営業など事業活動の環境負荷の継続的低減に努める。
4. 環境に配慮した施設計画、技術・製品開発を行う。
5. 企業市民として環境コミュニケーションの向上に努める。
6. 従業員への環境教育、啓発に努める。

地球温暖化防止に向けたCO2排出量削減の取り組みに関しても、ボイラーの燃料転換や低公害車の順次導入を計画中ですが、身近に出来ることとして、こまめな消灯、クールビズ・ウォームビズの実施、節水やエコドライブ励行や製造現場での省エネのための小さな改善・工夫の積み重ねにより、環境負荷低減に努めます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基 準 年 度	2012 年度	目 標 年 度	2015 年度
基 準 排 出 量	(実) 3,475 (調) 3,471 t-CO ₂	目 標 排 出 量	(実) 3,372 t-CO ₂
削 減 率	(実) 3.0 %	削 減 量	(実) 103 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原 単 位 の 活 動 量	空調延床面積	単 位	t-CO2/千㎡
基 準 年 度 の 値	233.0	目 標 年 度 の 値	226.0
削 減 率	3.0 %		
延床面積、生産数量 以外の原単位を使用 した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

2013年度の全社環境管理会議で、あすか製薬の中期環境目標が設定されました。特に省エネ温室効果ガス(GHG)の排出削減に関しては、事業所単位でエネルギーの効率的使用を徹底して全社で年1%以上のエネルギー消費原単位の低減、及び事業所単位でCO₂排出量単位の削減に取り組む、全社のCO₂排出量原単位の年1%以上の削減を目指すことが決議された。

その目標達成に向けて、3年間の計画期間中に以下の対策を実施する。

1. ボイラー燃料のガス化
2. トップランナー変圧器の採用
3. 高効率空調機の採用
4. 高効率照明器具の採用
5. 給湯設備のヒートポンプ化

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

全社で年1%以上のエネルギー消費原単位の低減、および事業所単位でCO₂排出量単位の削減に取り組む、全社のCO₂排出量原単位の年1%以上の削減を目指すことが決議された。

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置 (第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)	1. ボイラー用燃料転換 ● 灯油焚きボイラーから都市ガス焚きボイラーに更新する。 2. トップランナー変圧器の採用 ● 使用経過年数の高いものから順次更新する。 3. 高効率空調機の採用 ● 省エネ効率の高いものを選定して更新する。 4. 高効率照明器具の採用 ● LED照明器具の導入 5. 給湯設備のヒートポンプ化 ● 蒸気方式からヒートポンプ方式に変更する。
自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置 (第 3 号該当者等)	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

現時点で利用計画は無いが、将来的には導入しなければならないと考えている。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

- ・ 小型ボイラ高効率化 ①台数制御②ローテーション運転、インバーター式
- ・ 蒸気配管類の放熱防止対策(継続実施中)
 - ①省エネカバー・保温取付け ②保温ラッキング補修・雨水浸入防止シーリング
 - ③漏れの早期修理 ④不要配管撤去
- ・ 省エネ蒸気トラップ採用 149 台(継続実施中)
- ・ 蒸気ドレン回収 (ボイラー室内)
- ・ ボイラ連続ブローの廃熱回収
- ・ 高効率蛍光灯照明器具採用(継続実施中)
 - ①安定器のインバーター化 ②H f 式照明器具 ③高効率反射板の採用
- ・ 非常誘導灯のLED化及び適正配置(継続実施中)
- ・ 白熱ランプ型壁付けブラケットの蛍光ランプ化
- ・ 机上スポット照明 (ズライト) の蛍光ランプ化
- ・ エアコン高効率インバーター化(継続実施中)
- ・ 空調機の高効率インバーター化(継続実施中)
- ・ 空調用チラーユニットの高効率化、台数制御、季節毎に温度設定変更(継続実施中)
- ・ 空調用排気の廃熱回収
- ・ 変圧器 (トップランナー) の更新(継続実施中)

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

該当する事項なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

- エコキャップ推進協会へ協力します。（ペットボトルのキャップの再資源化に協力）
- 産業廃棄物の削減や資源を効率的に利用するために、廃棄物の 3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を基調とした循環型社会を志向する取り組みを積極的に進めます。また、中期環境目標では、最終処分率（最終処分量／排出量）を 1%未満とするゼロエミッションを推進します。
- 紙リサイクル用回収ボックス「エコペーパーソート」を導入・活用を進めます。
- グリーン購入の推進としては、
 - i) 物品を購入する際に必要性を十分考え、できる限り数量を削減する。
 - ii) 購入物品は環境配慮品を、環境負荷低減に努めている事業者より優先的に購入する。

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	3,475	t-CO ₂
(調)	3,471	

イ 第 3 号該当者等

(実)	t-CO ₂
(調)	

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎事業所	高津区下作延5丁目36番1号	1651	医薬品原薬製造業	3,475 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--